

**取組実績の概要** 【2ページ以内】

広島大学は、2015年9月に国連で採択された人類普遍の共通課題である「持続可能な開発目標（以下SDGs）」への貢献を目指すとともに、我が国の「インフラシステム輸出戦略」対象地域の一つであるASEAN地域に対して、地域の課題と世界が直面する課題の解決を結び付けて考え、行動できる先導的な人材を養成することを目的として、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイにおける社会インフラ整備に貢献する「人財」の育成を目標とし、2016年3月に、全国で初めて、カンボジア教育省及びミャンマー教育省高等教育局と学術交流・協力協定を締結させた。この両政府の要請に基づき、全国の生命に関わるインフラ（食・医療）とSTEAM（科学・技術・工学・教養/創造性・数学）教育（注：計画当初のSTEM教育から発展的に理解）のためのインフラ整備を中心に、現地ニーズに即した「人財」育成事業を展開してきた。

本事業では、養成すべき「人財」のコンピテンシーを「研究力」（＝現在ある多くのデータを分析し、科学的に原因を究明し、課題を明確にする力）と「社会起業力」（＝発見した課題の原因を十分理解した上で、様々な視点から創造的で具体的な新規事業・政策を立ち上げ、自ら行動に移す力）の二種類で定義し、これらのコンピテンシー育成のために多様な教育活動を展開してきた。「研究力」育成のため、SDGs17目標に関連する専門教育科目を英語で150科目以上提供してきた。「社会起業力」育成のため、SDGs関連社会起業科目を提供し、研究力を用いて具体的な社会問題を解決する力の育成を図ってきた。派遣学生へは、CLMV諸国でのインターンシッププログラムの提供も行い、現地の社会インフラ（食・医療・教育・科学・工学）発展に貢献する人財の育成を進めてきた。その結果、派遣修了学生はCLMV諸国でのSDGs達成に立ちほだかる問題を現地体験し、その経験に基づいて、進路にSDGsと結びつきの強いインフラ関連業界での就職を選ぶなど入り口と出口が結びついたプログラムを実施することができた。実際に、本プログラム参加学生の半数以上が、「インフラ人財」として活躍できる関連業種に就いている。受入れ学生の一部は広島大学大学院へ進学しており、各専門分野にて日本と母国を橋渡しする高度人財になることが期待される。

上記人財の育成を目的とした、本プログラムの特色ある教育活動に「国際課題研究科目」及び「PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー」が挙げられる。「国際課題研究科目」は、留学生が入学学部・研究科での専門的な研究指導を受けることと並行して、英語に堪能な国際センター（現：森戸国際高等教育学院）の教員が学術研究発表の仕方を教える科目であり、本科目は受講学生と学部・研究科の指導教員の双方から高い評価を受けてきた。「PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー」は、ドイツのミュンスター大学が開発した、学生同士のブレインストーミングを中心としたセミナー手法であり、創造的思考力を高めながら問題解決を図る点に特徴がある。ドイツでは、企業から依頼を受けてセミナーを実施しているほどに評価が高い。本事業では、ミュンスター大学の専門家による研修を受けた後、ディスカッションの方法をアジア人学生に適した形へ改良することで、「広島大学型アイデア発掘型学生セミナー」に進化させてきた。これを本事業独自の活動として、SDGsを毎回のテーマに、学内外でセミナーを開催してきた（コロナ渦でもオンラインで開催）。テーマ立案の際は地元企業が参加する場合もあり、企業のSDGs達成に関して具体的なソリューションを導いた。同セミナーは教育的効果が学内で認知され、学部教育だけでなく大学院共通授業科目でも活用され、学内普及が進んでいる。また、教育手法を学ぶ研修の開催を通じて、国内他大学へも展開している。これらに加えて、本事業では「ヒロシマ」の地域特性を生かし、被爆者との交流を含む平和学習を参加留学生に提供し、広島大学が掲げる「新しい平和科学の理念」を確実に浸透させてきた。

以上の教育活動の成功は、十分な質保証の仕組みに支えられてきた。本学は「スーパーグローバル大学創成支援事業」のトップ型13校の1校に選ばれており、全学統一の算出方法に基づくGPAの導入、コースナンバリング、シラバスの英語化など、成績管理・学修課程・出口管理の厳格化を事業開始前から実現していた。参加学生の学修成果測定には、米国で開発され、広島大学が日本語版を作成したBEVI (Beliefs, Events and Values Inventory) を留学効果測定ツールとして導入し、プログラム評価に活用してきた。単位互換では、広島大学がアジア・太平洋地域のUCTS (アジア・太平洋大学交流機構単位互換制度) 発展の中心的役割を果たしてきた事実を踏まえ、CLMV諸国との交流においても、UCTS学修計画書及びUMAP成績証明書を用いて円滑な単位互換を実現させてきた。事業の運営については「PEACE実施部会」を中心とした連絡網を構築し、事業期間中のプログラム実施運営を行ってきた。

本事業では参加学生の学びを支える環境整備にも注力してきた。学生情報システムを活用した管理、チューター教員や学生サポーターの配置、心身の健康を保つための保健管理センターとの連携など、学生支援体制を充実させ、留学生が安心して学業に専念できる環境を整えてきた。情報提供の面では

【B6 ○広島大学、広島経済大学】

プログラムの情報をインフォメーション・パッケージにまとめ、学生及び協定大学に配布した。専用HPに加えて専用Facebookでも情報発信を行い、プログラムや学生生活に関わる情報提供と事業の広報を日英両言語で行った。派遣学生には「海外渡航リスク管理セミナー」の開催及び海外旅行保険への加入、渡航前の緊急連絡体制の構築を通じ、安全管理を徹底させた。カンボジア、ミャンマー、ベトナムへの派遣学生の場合、本学の現地拠点や本プログラムで広島大学へ学生を派遣した現地大学からの支援を受けることができた。各国からのプログラム参加学生は現地同窓会とつながることができ、修了後も継続して広島大学との結びつきを維持している。また、本事業で来日した学生はASEAN展開を積極的に行っている企業が母体となる友好協会（広島アセアン友好協会、広島ベトナム友好協会、広島ミャンマー協会など）の年次会合等に招待されており、広島大学と各協会との結びつきの活性化につながった。これを契機にして、企業の特定期・地域を対象とした奨学寄付金の可能性についても、各友好協会と議論を開始している。

広島大学ではASEAN諸国を交流重点地域としており、本事業においても各教育活動の実施に加えて、事業の枠を超えた国際交流の拡大を図ってきた。例えば、広島大学の支援の下、事業連携大学の広島経済大学とタイのカセサート大学の間に、新たな学生交流パートナーシップが形成された。広島経済大学は経済理論だけではなく、実際のビジネス分野における人財教育にも強く、広島大学との連携で経済分野の総合的人財教育の補強が可能となった。また、カンボジア教育省内に設置した「広島大学－カンボジア王国教育、青少年、スポーツ省連携センター」の支援に基づき、広島大学は本事業参画大学ではないカンボジアの王立及び国立の6大学（王立芸術大学、国立経営大学、王立法律・経済大学、王立農業大学、カンボジア工科大学、プレックリープ国立農業大学）とも大学間協定を締結することができ、ASEAN地域でのさらなる国際交流への道を開くことができた。

以上の成果を挙げられた要因には、本事業の支援のもと、優れた事務体制を構築し、適切な人員を配置できたことがある。事業全体の事務を担当する国際室には海外経験が豊富で語学に堪能な人材が多く、また、研究についても理解できる研究員が雇用されている。さらに、事業専属の教育交流コーディネーター（特任助教）1名に加えて、専属の事務職員を1名配置することで、プログラム参加学生及び関係部署との緊密なコミュニケーションが可能となった。派遣・受入れ担当の学部・研究科には国際担当職員が配置されており、プログラム専属のコーディネーターと連携して情報共有を行った。カンボジアの現地拠点には現地スタッフを配置し、本プログラムの支援だけではなく、現地学生への日本の大学留学の広報など、オールジャパンの姿勢で業務を実行することで存在感を示してきた。

中間評価では交流実績の拡大と質の充実が指摘され、その対応を進めている中でコロナ禍の影響を受けた。しかし、本プログラムの特色である「国際課題研究科目」と「PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー」はオンラインにて提供することを実現させた。本事業で実施してきたカンボジア現地へのスタディツアーでは、コロナ禍前から事前・事後研修にオンラインでの現地学生との協働教育（COIL）を導入していたことで、2019年度実施分は現地研修をCOILに替え、2020年度は全面的にCOIL型教育として提供することで、コロナ禍においても学生交流プログラムを実施することができた。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

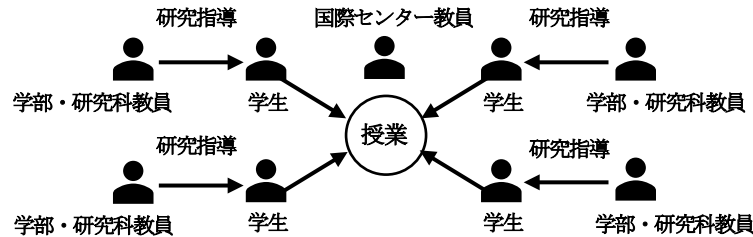
	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
計画※	0	15	44	46	50	49	49	49	50	49	193	208	
実績	実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	0	14	32	36	50	38	27	36	0	5	109	129
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)							5	0	9	7	14	7
	実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)							0	0	0	0	0	0

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

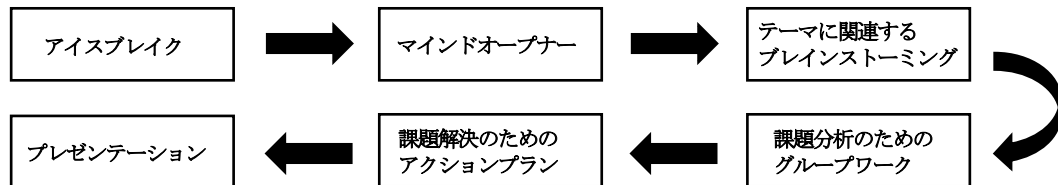
○魅力的な教育プログラムの構築

## (1)「国際課題研究」科目



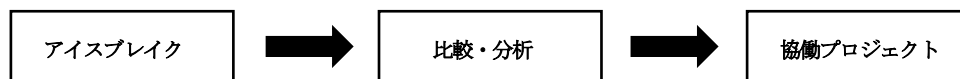
本科目では国際センター（現：森戸国際高等教育学院）の教員と、学部・研究科の教員が共同教育を行う。受講生は各専門分野でラボワークを中心とした研究指導を受けつつ、授業では他分野の学生と、国際センター教員の指導のもとで研究発表の練習を行う。専門分野外の教員や、他分野の学生と共に学ぶことで、SDGsに貢献する人材として重要な「幅広いターゲット層に向けた説明能力」を育成できる。最終発表会には各指導教員も参加し、学部・研究科の教員は本科目を評価している。Semester留学では珍しい、専門分野のラボへの所属によって、受入れ学生の大学院進学にも結びついた。

## (2)「PEACE-SDGsアイデア発掘型学生セミナー」



これは上記のような一定の構造をもとにして、8時間をかけて実施される問題解決セミナーである。この構造は、人間の創造性に関する心理学の知見を踏まえており、参加者の創造性を意図的に高める工夫がなされている。受入れ留学生にとっては、専門の研究力を、社会問題の解決に生かすための場として機能するだけでなく、国内学生と知り合う機会でもあった。国内学生にとっては、一日中英語で議論をする場であり、英語力を伸ばす場としても高く評価された。「アイデア発掘」の教育手法についてはワークショップの開催を通じて、大学院共通授業科目の一つとして採用されるなど、本事業以外での普及が進むとともに、国内外他大学（例、福井大学、ラオス国立4大学）への展開も進んでいる。また、広島経済大学では職員研修に取り入れられるなど、興味深い応用が見られている。なおセミナーのテーマ立案の際には地元企業が参加する場合もあり、その企業のSDGs達成に関して具体的なソリューションを導いた。

## (3)「平和」をテーマにしたオンライン国際協働学習(COIL)の実践



カンボジアで実施していた1週間程度のスタディ・ツアーでは、コロナ禍前よりCOIL型教育を事前・事後研修で取り入れていた。コロナ禍以後、王立プノンペン大学と共同して、上図の標準的なCOILのモデルに沿って再デザインし、本格的な科目へと発展させた。プロジェクト学習においては、「ヒロシマ」の地域特性とカンボジアの歴史を踏まえて、「平和」をテーマに設定し、両大学の学生が広島戦争史とカンボジアの内戦史を互いに教え合いながら比較分析し、最後は共同研究をオンライン上で行うという、独創性のある教育プログラムとして実践することができた。

○学生交流

**UMAP単位互換制度(UCTS)の促進**：本学生交流事業では、2019年にASEAN+3教育大臣会議において参照ツールとして公式に認められたUCTSの普及を広島大学が主導してきたことを踏まえ、同制度について、協定大学から理解を得ながら単位互換を促進してきた。特にUCTS学修計画書を用いた留学計画支援と、広島大学で作成したUMAP成績証明を用いて、協定国との単位互換を円滑に行うことができた。